

## 2章 単純集計結果・分析

- ◆ ここでは、回答された選択肢の割合をいくつか合わせて示したり、あるいは、選択肢の一部のみの割合を示したりしている。  
また、項目ごとの学年間の違いと学年ごとの項目の特徴を同時に見るために、折れ線グラフで示しているが、項目間の関連があるわけではない。
- ◆ それぞれの質問項目については、「5章 資料」の71ページから105ページに詳細な結果を掲載してあるので、参照してほしい。



## 家庭でのしつけに関すること

「家庭でのしつけに関すること」の質問は、次の表に示す 19 項目である。  
 なお、これ以降は、表中に示す略称を用いる。

	質問項目	略称
1	家族そろって食事をする	家族そろって食事をする
2	毎日、朝食を食べる	毎日、朝食を食べる
3	自分で起床する	自分で起床する
4	睡眠を十分にとる	睡眠を十分にとる
5	身のまわりの整理整頓をする	整理整頓をする
6	自分のことは自分でする	自分のことは自分でする
7	言ったことやしたことに責任をもつ	言動に責任をもつ
8	家の手伝いをする	家の手伝いをする
9	命を大切にする	命を大切にする
10	うそをついたり、人をだましたりしない	うそをつかない
11	約束を守る	約束を守る
12	人に親切にする	人に親切にする
13	友達や先生、近所の人などに「おはよう」「おはようございます」などのあいさつをする	あいさつをする
14	人に何かをしてもらったときに「ありがとう」「ありがとうございます」などの感謝の言葉を言う	感謝の言葉を言う
15	人に迷惑をかけたときや自分が間違ったときに「ごめんなさい」「すみません」などとあやまる	間違ったときはあやまる
16	言葉づかいに気をつける	言葉づかいに気をつける
17	テレビゲームや携帯電話などを使うときは、使いすぎないようにする	ゲームや携帯を使いすぎない
18	お金を大切にする	お金を大切にする
19	物を大切にする	物を大切にする

### 1 児童生徒の調査結果について

この表は、4 ページ「3 質問の構成」に、「回答の選択肢」を付け加え、本節で述べる領域等の範囲を  で示したものである。

領域	項目数	質問内容(児童生徒)	質問内容(保護者)	回答の選択肢
家庭でのしつけに関すること	19 項目	家庭で話題になったり、家の人から言われたりすることがどれくらいあるか		よく言われる ときどき言われる あまり言われない まったく言われない
		それらのことがどれくらいできているか		よくできている だいたいできている あまりできていない まったくできていない

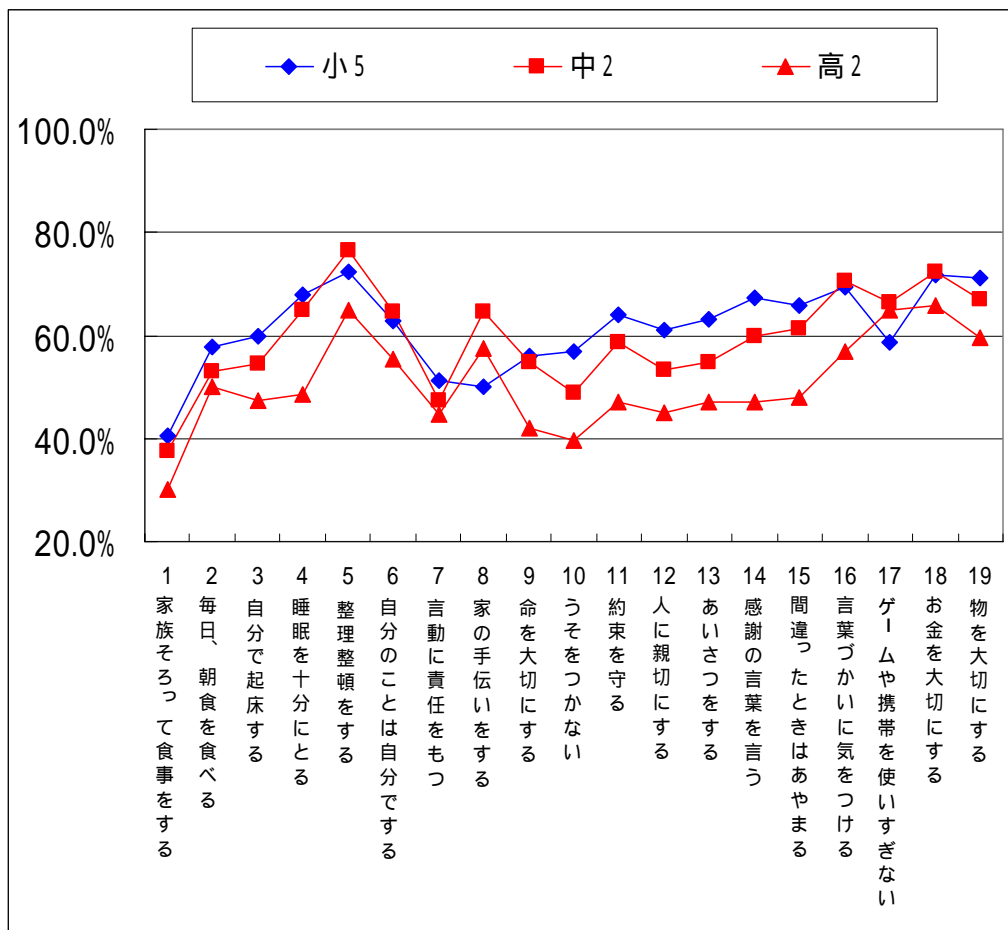
では、家庭で話題になったり、家の人から言われたりすることがどれくらいあるか、その頻度を質問した。

では、それらのことがどれくらいできているか、その程度を質問した。

(1)家庭で話題になったり、家の人から言われたりする頻度

質問 「1から19のことが家庭で話題になったり、家の人から言われたりするものがどれくらいありますか。」

下のグラフは、各質問項目の「よく言われる」と「ときどき言われる」を合わせた割合を、学年ごとに示したものである。また、下の表は、その割合が高い順に質問項目を並べ、学年ごとに示したものである。



「よく言われる」と「ときどき言われる」を合わせた割合						
順位	小5	中2	高2			
1	整理整頓をする	72.3%	整理整頓をする	76.5%	お金を大切ににする	65.7%
2	お金を大切ににする	71.8%	お金を大切ににする	72.2%	ゲームや携帯を使いすぎない	65.0%
3	物を大切ににする	71.0%	言葉づかいに気をつける	70.6%	整理整頓をする	64.8%
4	言葉づかいに気をつける	69.5%	物を大切ににする	67.0%	物を大切ににする	59.6%
5	睡眠を十分にとる	67.8%	ゲームや携帯を使いすぎない	66.3%	家の手伝いをする	57.3%
6	感謝の言葉を言う	67.2%	睡眠を十分にとる	64.8%	言葉づかいに気をつける	56.8%
7	間違ったときはあやまる	65.7%	家の手伝いをする	64.7%	自分のことは自分でする	55.3%
8	約束を守る	64.1%	自分のことは自分でする	64.6%	毎日、朝食を食べる	50.0%
9	あいさつをする	63.3%	間違ったときはあやまる	61.3%	睡眠を十分にとる	48.6%
10	自分のことは自分でする	62.8%	感謝の言葉を言う	60.0%	間違ったときはあやまる	48.1%
11	人に親切にする	61.2%	約束を守る	58.7%	自分で起床する	47.4%
12	自分で起床する	59.7%	命を大切ににする	54.9%	約束を守る	47.0%
13	ゲームや携帯を使いすぎない	58.8%	あいさつをする	54.8%	あいさつをする	47.0%
14	毎日、朝食を食べる	57.8%	自分で起床する	54.6%	感謝の言葉を言う	47.0%
15	うそをつかない	56.9%	人に親切にする	53.2%	人に親切にする	45.0%
16	命を大切ににする	55.9%	毎日、朝食を食べる	53.1%	言動に責任をもつ	44.4%
17	言動に責任をもつ	51.1%	うそをつかない	48.8%	命を大切ににする	42.0%
18	家の手伝いをする	50.1%	言動に責任をもつ	47.3%	うそをつかない	39.6%
19	家族そろって食事をする	40.5%	家族そろって食事をする	37.7%	家族そろって食事をする	30.2%

〔結果から見られる特徴〕

- ア 学年ごとに 19 項目の「言われる」(「よく言われる」と「ときどき言われる」を合わせた割合)の平均値を求めると、小5は61.4%、中2は59.5%、高2は50.6%であり、全体的に学年が上がるにしたがって低くなっている。
- イ 「17. ゲームや携帯を使いすぎない」、「8. 家の手伝いをする」は、全体的傾向とは違い、中2、高2の「言われる」割合が高く、小5の「言われる」割合が低い。
- ウ 「5. 整理整頓をする」、「18. お金を大切に使う」、「19. 物を大切に使う」、「16. 言葉づかいに気をつける」は、どの学年の中でも「言われる」と回答している割合が高い。
- エ 「1. 家族そろって食事をする」、「7. 言動に責任をもつ」、「10. うそをつかない」は、どの学年の中でも「言われる」と回答している割合が低い。
- オ 「1. 家族そろって食事をする」は、どの学年の中でも最も「言われる」と回答している割合が低い。
- カ 「9. 命を大切に使う」は、小5と高2の中では「言われる」と回答している割合が低い。

キ 「8. 家の手伝いをする」の男女の割合を見てみると、小5ではあまり男女差がないが、中2では11.4%、高2では20.2%女子の方が男子より高い。(表1参照、「よく言われる」と「ときどき言われる」を合わせた割合)

家の手伝いをする		よく言われる	ときどき言われる	あまり言われない	まったく言われない	回答数
小5	男	53 27.7%	39 20.4%	53 27.7%	46 24.1%	191
	女	58 33.0%	34 19.3%	49 27.8%	35 19.9%	176
	計	111 30.2%	73 19.9%	102 27.8%	81 22.1%	367
中2	男	40 22.9%	63 36.0%	44 25.1%	28 16.0%	175
	女	83 44.9%	47 25.4%	40 21.6%	15 8.1%	185
	計	123 34.2%	110 30.6%	84 23.3%	43 11.9%	360
高2	男	40 19.0%	61 29.0%	57 27.1%	52 24.8%	210
	女	58 32.4%	64 35.8%	40 22.3%	17 9.5%	179
	計	98 25.2%	125 32.1%	97 24.9%	69 17.7%	389

表 1

ク 「16. 言葉づかいに気をつける」の男女の割合を見てみると、中2ではあまり男女差がないが、小5では16.4%、高2では18.9%女子の方が男子より高い。(表2参照、「よく言われる」と「ときどき言われる」を合わせた割合)

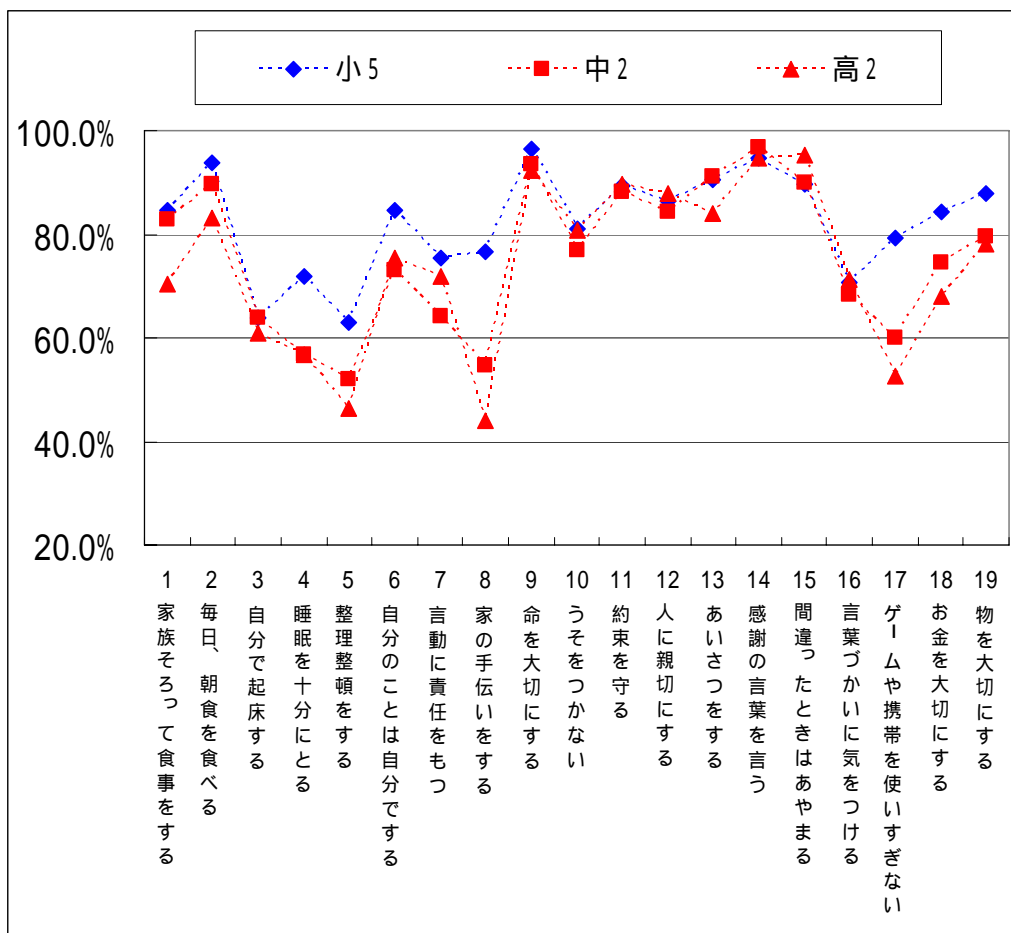
言葉づかいに気をつける		よく言われる	ときどき言われる	あまり言われない	まったく言われない	回答数
小5	男	74 38.3%	45 23.3%	42 21.8%	32 16.6%	193
	女	89 50.3%	49 27.7%	21 11.9%	18 10.2%	177
	計	163 44.1%	94 25.4%	63 17.0%	50 13.5%	370
中2	男	55 31.6%	60 34.5%	29 16.7%	30 17.2%	174
	女	75 40.3%	64 34.4%	32 17.2%	15 8.1%	186
	計	130 36.1%	124 34.4%	61 16.9%	45 12.5%	360
高2	男	49 23.3%	52 24.8%	53 25.2%	56 26.7%	210
	女	69 38.5%	51 28.5%	33 18.4%	26 14.5%	179
	計	118 30.3%	103 26.5%	86 22.1%	82 21.1%	389

表 2

(2)できている程度

質問 「あなたは、そのことがどれくらいできていますか。」

下のグラフは、各質問項目の「よくできている」と「だいたいできている」を合わせた割合を、学年ごとに示したものである。また、下の表は、その割合が高い順に質問項目を並べ、学年ごとに示したものである。



〔結果から見られる特徴〕

- ア 「2. 毎日、朝食を食べる」、「9. 命を大切にする」、「10. うそをつかない」、「11. 約束を守る」、「12. 人に親切にする」、「13. あいさつをする」、「14. 感謝の言葉を使う」、「15. 間違ったときはあやまる」は、どの学年も高い割合で「できている」(「よくできている」と「だいたいできている」を合わせた割合)と回答している。
- イ アに挙げた項目以外の項目では、多くの項目で中2と高2に比べ、小5の割合が高い。特に「4. 睡眠を十分にとる」、「8. 家の手伝いをする」、「17. ゲームや携帯を使いすぎない」では、その傾向が顕著である。
- ウ 「9. 命を大切にする」、「14. 感謝の言葉を使う」、「15. 間違ったときはあやまる」は、どの学年の中でも「できている」と回答している割合が高い。

エ 「5. 整理整頓をする」は、どの学年の中でも「できている」と回答している割合が低い。さらに、男女の割合を見てみると、小5、中2では、女子が男子よりそれぞれ26.5%、11.5%「できている」と回答している割合が高い。一方、高2では、男子の方が20.9%高くなっている。(表3参照、「できている」と「だいたいできている」を合わせた割合)

整理整頓をする		よくできている	だいたいできている	あまりできていない	まったくできていない	回答数				
小5	男	26	13.6%	70	36.6%	65	34.0%	30	15.7%	191
	女	53	30.1%	82	46.6%	32	18.2%	9	5.1%	176
	計	79	21.5%	152	41.4%	97	26.4%	39	10.6%	367
中2	男	25	14.4%	55	31.6%	79	45.4%	15	8.6%	174
	女	17	9.1%	90	48.4%	62	33.3%	17	9.1%	186
	計	42	11.7%	145	40.3%	141	39.2%	32	8.9%	360
高2	男	39	18.5%	79	37.4%	64	30.3%	29	13.7%	211
	女	13	7.3%	49	27.7%	92	52.0%	23	13.0%	177
	計	52	13.4%	128	33.0%	156	40.2%	52	13.4%	388

表 3

オ 「8. 家の手伝いをする」は、中2と高2の中では「できている」と回答している割合が低い。

カ 「10. うそをつかない」では、どの学年も女子の方が男子より10~15%「できている」と回答している割合が高い。(表4参照、「できている」と「だいたいできている」を合わせた割合)

うそをつかない		よくできている	だいたいできている	あまりできていない	まったくできていない	回答数				
小5	男	65	33.9%	81	42.2%	39	20.3%	7	3.6%	192
	女	62	34.8%	92	51.7%	19	10.7%	5	2.8%	178
	計	127	34.3%	173	46.8%	58	15.7%	12	3.2%	370
中2	男	48	27.6%	75	43.1%	44	25.3%	7	4.0%	174
	女	44	23.7%	110	59.1%	25	13.4%	7	3.8%	186
	計	92	25.6%	185	51.4%	69	19.2%	14	3.9%	360
高2	男	48	22.9%	108	51.4%	42	20.0%	12	5.7%	210
	女	65	36.7%	92	52.0%	18	10.2%	2	1.1%	177
	計	113	29.2%	200	51.7%	60	15.5%	14	3.6%	387

表 4

### (3) 児童生徒の結果から考えられること

- お金や物などの使い方という観点から、「17. ゲームや携帯を使いすぎない」、「18. お金を大切にする」、「19. 物を大切にする」の問いを設定したが、「ゲーム」と「携帯電話」では、質的な意味において違いがあるようである。「17. ゲームや携帯を使いすぎない」については、中高校生の携帯電話の所有率が高まっていることから、その使用に関して家庭内で話題になることが多くなっていると考えられる。
- 9～15の、人と接する場面での行動に関するような項目については、できているという意識が高いが、3～8の、自分自身の行動に関するような項目では、できているという意識は低いようである。



## 2 保護者の調査結果について

この表は、4 ページ「3 質問の構成」に、「回答の選択肢」を付け加え、本節で述べる領域等の範囲を  で示したものである。

領域	項目数	質問内容(児童生徒)	質問内容(保護者)	回答の選択肢
家庭でのしつけに関すること	19 項目		その必要性や大切さを子どもと話したり、子どもに言って聞かせたりすることがどれくらいあるか	よく話す ときどき話す あまり話さない まったく話さない
			子どもは、それらのことがどれくらいできているか	よくできている だいたいできている あまりできていない まったくできていない

保護者も、児童生徒と同様に、2 段階に分けて質問した。

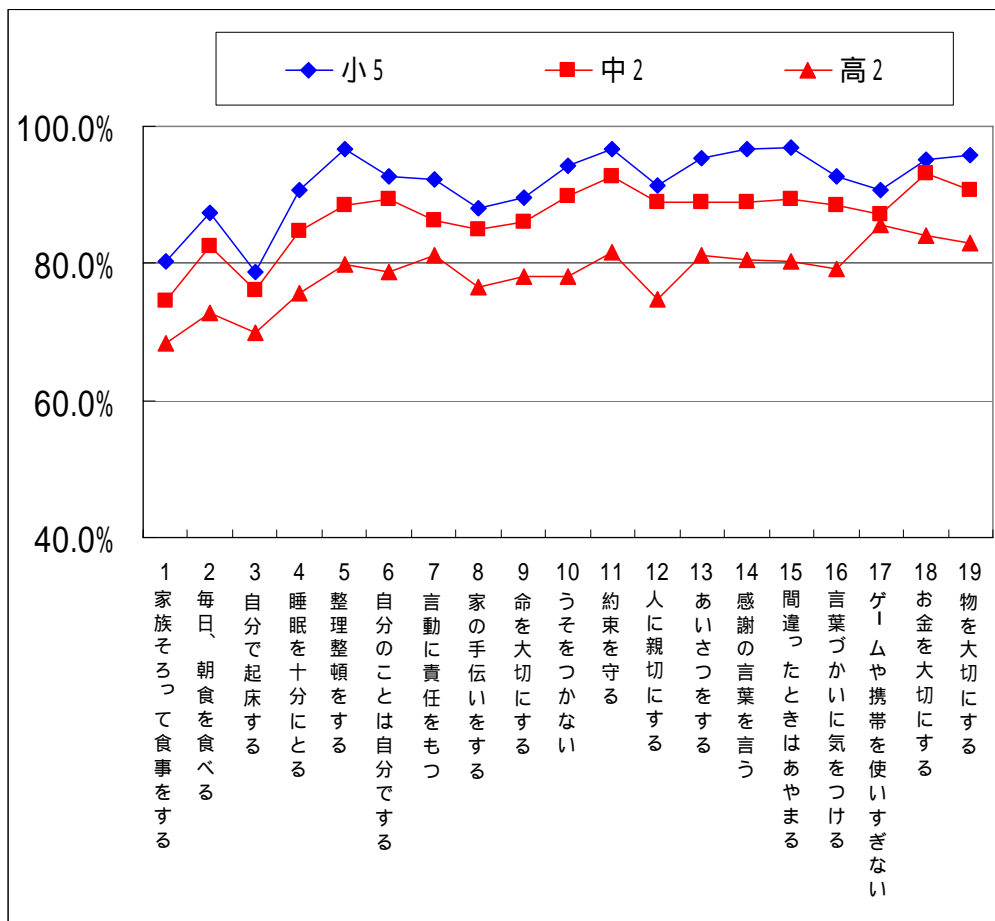
では、その必要性や大切さを子どもと話したり、子どもに言って聞かせたりすることがどれくらいあるか、その頻度を質問した。

では、子どもが、それらのことがどれくらいできているか、その程度を質問した。

(1)必要性や大切さを子どもと話したり、言って聞かせたりする頻度

質問 「その必要性や大切さを子どもと話したり、子どもに言って聞かせたりすることが、どれくらいありますか。」

下のグラフは、各質問項目の「よく話す」と「ときどき話す」を合わせた割合を、学年ごとに示したものである。また、下の表は、その割合が高い順に質問項目を並べ、学年ごとに示したものである。



順位	小5	中2	高2
1	間違ったときはあやまる 96.9%	お金を大切にす 93.1%	ゲームや携帯を使いすぎない 85.7%
2	整理整頓をする 96.6%	約束を守る 92.7%	お金を大切にす 84.1%
3	約束を守る 96.6%	物を大切にす 90.6%	物を大切にす 82.8%
4	感謝の言葉を言う 96.6%	うそをつかない 89.8%	約束を守る 81.6%
5	物を大切にす 95.7%	間違ったときはあやまる 89.4%	言動に責任をもつ 81.2%
6	あいさつをする 95.4%	自分のことは自分でする 89.3%	あいさつをする 81.2%
7	お金を大切にす 95.1%	感謝の言葉を言う 88.9%	感謝の言葉を言う 80.5%
8	うそをつかない 94.2%	人に親切にする 88.9%	間違ったときはあやまる 80.3%
9	自分のことは自分でする 92.6%	あいさつをする 88.9%	整理整頓をする 79.9%
10	言葉づかいに気をつける 92.6%	言葉づかいに気をつける 88.6%	言葉づかいに気をつける 79.1%
11	言動に責任をもつ 92.3%	整理整頓をする 88.4%	自分のことは自分でする 78.8%
12	人に親切にする 91.4%	ゲームや携帯を使いすぎない 87.0%	うそをつかない 78.0%
13	睡眠を十分にとる 90.8%	言動に責任をもつ 86.2%	命を大切にす 78.0%
14	ゲームや携帯を使いすぎない 90.7%	命を大切にす 86.1%	家の手伝いをする 76.6%
15	命を大切にす 89.6%	家の手伝いをする 84.9%	睡眠を十分にとる 75.7%
16	家の手伝いをする 88.0%	睡眠を十分にとる 84.7%	人に親切にする 74.7%
17	毎日、朝食を食べる 87.3%	毎日、朝食を食べる 82.4%	毎日、朝食を食べる 72.9%
18	家族そろって食事をする 80.4%	自分で起床する 76.2%	自分で起床する 69.9%
19	自分で起床する 78.7%	家族そろって食事をする 74.5%	家族そろって食事をする 68.4%

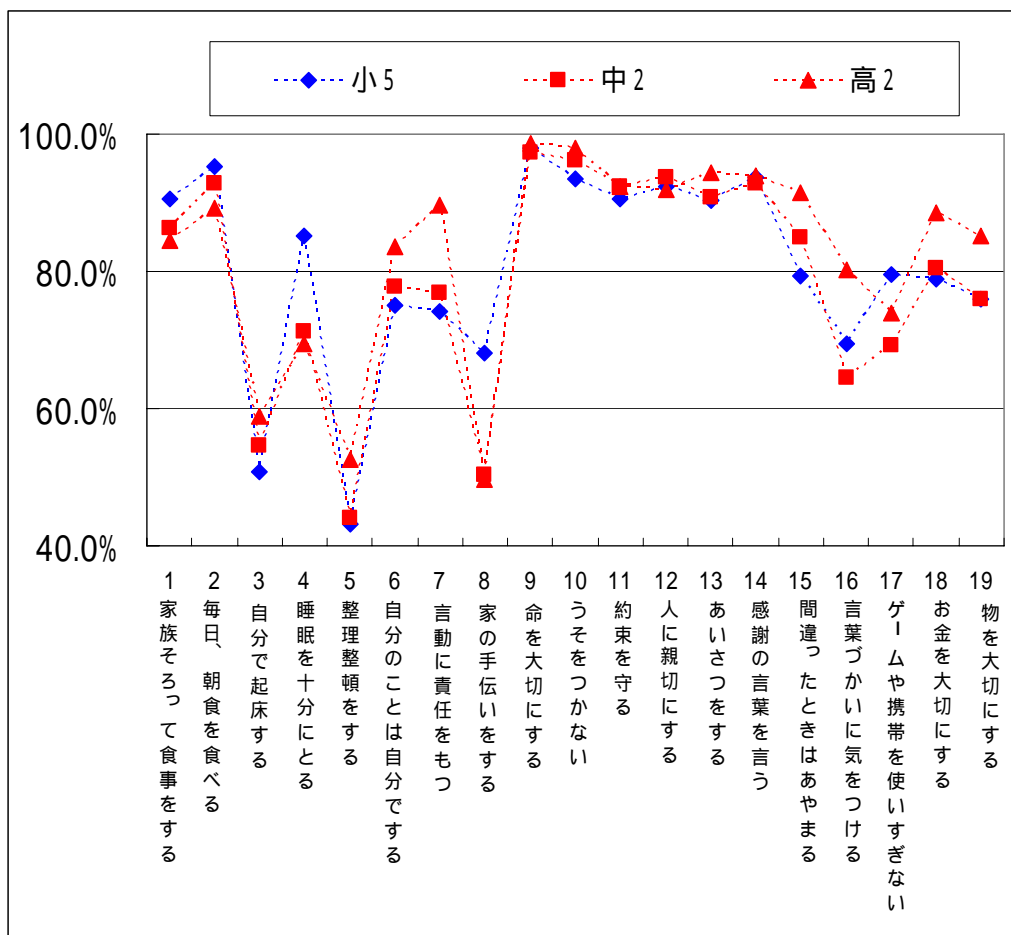
〔結果から見られる特徴〕

- ア すべての項目で、小5の割合が最も高く、中2、高2と学年が上がるにしたがって割合が低くなっている。
- イ 「11．約束を守る」、「19．物を大切に使う」は、どの学年の中でも「話す」（「よく話す」と「ときどき話す」を合わせた割合）と回答している割合が高い。
- ウ 「1．家族そろって食事をする」、「2．毎日、朝食を食べる」、「3．自分で起床する」は、どの学年の中でも「話す」と回答している割合が低い。
- エ 中2、高2の「18．お金を大切に使う」、高2の「17．ゲームや携帯を使いすぎない」は、それぞれの学年の中で、「話す」割合が高い。

## (2) 子どもができている程度

質問 「お子様は、そのことがどれくらいできていますか。」

下のグラフは、各質問項目の「よくできている」と「だいたいできている」を合わせた割合を、学年ごとに示したものである。また、下の表は、その割合が高い順に質問項目を並べ、学年ごとに示したものである。



「よくできている」と「だいたいできている」を合わせた割合						
順位	小5		中2		高2	
1	命を大切にすること	97.9%	命を大切にすること	97.3%	命を大切にすること	98.6%
2	毎日、朝食を食べる	95.3%	うそをつかない	96.2%	うそをつかない	98.1%
3	感謝の言葉を言う	93.8%	人に親切にする	93.7%	あいさつをする	94.4%
4	うそをつかない	93.5%	感謝の言葉を言う	92.9%	感謝の言葉を言う	93.9%
5	人に親切にする	92.3%	毎日、朝食を食べる	92.8%	約束を守る	92.3%
6	家族そろって食事をする	90.6%	約束を守る	92.3%	人に親切にする	91.9%
7	約束を守る	90.5%	あいさつをする	90.8%	間違ったときはあやまる	91.4%
8	あいさつをする	90.2%	家族そろって食事をする	86.3%	言動に責任をもつ	89.7%
9	睡眠を十分にとる	85.1%	間違ったときはあやまる	84.9%	毎日、朝食を食べる	89.2%
10	ゲームや携帯を使いすぎない	79.5%	お金を大切にすること	80.5%	お金を大切にすること	88.5%
11	間違ったときはあやまる	79.3%	自分のことは自分ですること	77.7%	物を大切にすること	85.2%
12	お金を大切にすること	78.9%	言動に責任をもつ	76.9%	家族そろって食事をする	84.4%
13	物を大切にすること	76.0%	物を大切にすること	76.0%	自分のことは自分ですること	83.6%
14	自分のことは自分ですること	75.1%	睡眠を十分にとる	71.2%	言葉づかいに気をつける	80.2%
15	言動に責任をもつ	74.1%	ゲームや携帯を使いすぎない	69.1%	ゲームや携帯を使いすぎない	74.0%
16	言葉づかいに気をつける	69.4%	言葉づかいに気をつける	64.6%	睡眠を十分にとる	69.5%
17	家の手伝いをする	68.2%	自分で起床すること	54.5%	自分で起床すること	58.8%
18	自分で起床すること	50.9%	家の手伝いをする	50.4%	整理整頓をする	52.5%
19	整理整頓をする	43.2%	整理整頓をする	44.0%	家の手伝いをする	49.6%

〔結果から見られる特徴〕

- ア 9～15の、人と接する場面での行動に関するような項目では、「できている」「よくできている」と「だいたいできている」を合わせた割合が高いが、3～8など、自分自身の行動に関するような項目では、「できている」割合が低いものが多い。
- イ 「9．命を大切にする」は、すべての学年で「できている」と回答した割合が最も高い。また、「10．うそをつかない」、「14．感謝の言葉を言う」も、どの学年の中でも回答の割合が高い。
- ウ 「3．自分で起床する」、「5．整理整頓をする」、「8．家の手伝いをする」が、どの学年の中でも「できている」割合が低い。しかし、これらと関連の深い「6．自分のことは自分でする」、「7．自分の言動に責任をもつ」、「9．約束を守る」は比較的高い。

### (3)保護者の結果から考えられること

- しつけに関することについて話す頻度は、全体的に小5が高く、中2、高2と学年が上がるにしたがって低くなっている。子どもが小さいときには、様々なことについて言って聞かせ、できるようにしていく、できなければその都度言って聞かせている、年令が上がるにしたがって多くのことを話す機会は減ってくるが、発達段階に応じた言葉かけをしているものと考えられる。
- 小5の「15.間違ったときはあやまる」、「11.約束を守る」、「14.感謝の言葉を言う」、「13.あいさつをする」などで保護者が子どもに話す割合が高いのは、小学生の段階では、子どもに基本的な人との接し方を身に付けさせようとする意識が高いからであろう。
- 中2、高2の「18.お金を大切に使う」、高2の「17.ゲームや携帯を使いすぎない」で保護者が話す割合が高いのは、発達段階に応じてお金の管理を子どもに委ねるようになっていくことや、子どもが扱う金額が大きくなっていくこと、行動が保護者の目の届く範囲から広がっていくこと、携帯電話等の所有率の上昇などの影響によることなどが考えられる。また、中・高校生の携帯電話所有率が高くなっている（「情報に関するアンケート」平成17年 総合教育センター調べ）ことから、携帯電話の使用にかかわる時間や金銭的な問題と、生活や学習等への影響について、保護者の多くが不安に思っていることの表れであると考えられる。
- 「できている」程度については、児童生徒同様、人と接する場面での行動に関するような項目については、できている意識が高いが、自分自身の行動に関するような項目ではできている意識は低いようである。
- 学年が上がるにしたがって、「自分で」、「責任をもつ」、「約束を守る」などはできるようにしていると評価してはいるものの、その中でも「起床」、「整理整頓」、「家の手伝い」などの評価が低い。その理由として、それらの行為は具体的に常に目に見えるものであることが考えられる。